

「多文化交流プラザ」から

岐阜市の「国際交流月間」をご存じですか？岐阜市の友好姉妹都市は、世界に6都市あるんです。その提携月が「2月」であることが多いので、岐阜市では2月を「国際交流月間」と定めています。それに合わせて、2023年2月には「国際交流イベント」として、友好姉妹都市の紹介や映画上映等を開催する予定です。お楽しみに！



「岐阜市立中央図書館」から

10月22日(土)~23日(日)に開催された、公共交通フェスタ。岐阜市立中央図書館も参加して、司書がコミュニティバス車内で絵本の読み聞かせを行いました！バスの中での読み聞かせは特別な雰囲気。バスや乗り物が出てくる絵本に、参加してくれた子どもたちは、楽しそうに声をあげていました。



voice 04  
小さい頃から通っているのでメディコスには馴染み深い場所です。勉強に疲れたら、本を読んだりしてリフレッシュできるのが良いです！

voice 03  
高田珠里さん  
山田真子さん

voice 04  
西田佳正さん  
梨奈さん  
有佑くん

子どもがよく「メディコス行こう！」と言うほど気に入っていて、週に1回は来ています。開催されているイベントに参加することもあります。

MEDICOS NEWS

VOL.07

1 ぎふ古今の本棚からおすすめの一冊

観光旅行ブームに沸いた昭和初期の観光パンフレットから、全国各地の観光を読み解く「日本の観光—昭和初期観光パンフレットに見る」。交通網が全国に張り巡らされ、庶民が手軽に旅行できるようになった近代以降、多くの観光パンフレットが発行されました。中でも魅力的な観光名所が詰まっている吉田初郎氏の「鳥瞰図」は、「ぎふ古今」の「歴史ギャラリー」でも使用。戦争までの東の間のブームですが、当時の日本人のエネルギーを感じます。



※岐阜は続編にあたる「日本の観光2」(谷沢明氏:著/八坂書房)に掲載

2 あなうつくしや。闇夜に光るメディコス

普段メディコスを昼間に訪れるという方にぜひ見てほしいのが夜の姿。特に外観は必見です。日が沈むと図書館は一斉にカーテンが開きます。すると浮かび上がるのは、火を灯した提灯のようなグローブと、それに照らされる天井の木格子。あなうつくしや。「メディコス八景」登録間違いなし。全てが異なるグローブの柄は、多様性の象徴です。人々が集まる大きな家(メディコス)の中の小さな家(グローブ)。そんなことを意識して見ると面白いですね。



【みんなの森 ぎふメディアコスモス】  
〒500-8076 岐阜市司町40-5  
TEL.058-265-4101 <https://g-mediacosmos.jp/>  
季刊 メディコス文化道 VOL.07 (2022年12月発行)  
発行/みんなの森 ぎふメディアコスモス  
編集・デザイン/さかだちブックス(株式会社トリドリクリエイティブセンター)



MEDICOS  
BUNKA  
MICHII

文化道  
メディコス

季刊

VOL.07



【特集】  
祝！「Library of the Year 2022 大賞」受賞！

【岐阜の文化地図】  
司町・伊奈波エリア



メディコス掲示板「winter」

総合プロデューサー  
吉成信夫からの  
ひとこと。



「Library of the Year 2022大賞」に選ばれたことで私がかつとも嬉しかったのは、図書館だけでなくメディコス全体に及ぶ総合的な活動を評価していただいたことです。それぞれに積み重ねてきたことが、喜怒哀楽の記憶とともに、パッチワークのようにつながり、1枚の布に織り込まれてきたのだと思うからです。これからも「みんなのコモンズ」をさらに広げていきましょう。

「市民活動交流センター」から

10月に3年ぶりの「フム・ドキ・ワイワイ」を開催しました。過去最多の43の団体が参加。フムフム考え、ドキドキ体験し、ワイワイ楽しむ、多様な活動が繰り広げられました。ステージ発表には盛大な拍手が送られ、体験・参加型プログラムは子連れ家族に好評。“久々に夢中になった”といった感想をいただきました。



“まちの人”の声

メディコス2階にある岐阜市立中央図書館の利用者の声をお届けします！

voice 02  
孫が本が好きなので、これまでに2~3回来ています。蔵書が充実していて、開放的で子どもがいても気楽に来れるのがありがたいです。



voice 02 信田正志さん  
祥汰くん

建築のデザインがおしゃれで、開放的な空間が心地よく、図書館を中心によく来ています。1人でも親子でも楽しめますね。

voice 01  
尾関友子さん  
恵礼奈ちゃん



【特集】FEATURE  
祝！「Library of the Year 2022 大賞」受賞！



図書館と市民活動を軸に、地域の可能性を追求する複合文化施設

これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関を評価して、NPO法人 知的資源イニシアティブが2006年から毎年授与している「Library of the Year」。今年、みんなの森 ぎふメディアコスモスは、従来の図書館イメージを覆す図書館サービスを提供し、他の図書館等の参考となる先進的な活動を評価する「優秀賞」を受賞。さらに、その中から「大賞」に選ばれました！

評価ポイント

- 「知・文化・絆の拠点」の建物と機能が見事に融合
- 「子ども司書養成講座」「おとなの夜学」等を通して地域の魅力と可能性を掘り起こしている
- 市民と共に成長する複合文化施設のモデル

子どもの声は未来の声

子ども司書養成講座



「本と人をつなぐリーダー」を育む人気企画。子どもたちが司書の仕事を学び、おすすめ本の紹介やPOP作りを通して、思いを自分の言葉で表現します。

おとなの夜学



「岐阜にしながら知らなかった岐阜を知る」がコンセプト。岐阜の地域文化に精通した“その道の第一人者”の講座を開催しています。

新たなシンボル シビックプライドプレイス “ぎふ古今”

2022年にメディコス1階にオープンした岐阜の歴史・ひと・文化の魅力を集めた情報発信拠点。iPad端末とタッチパネルモニターが設置され、岐阜のまちの歴史や文化の断片にゲーム感覚で触れたり、オリジナルのまち歩きマップを作ることができます。



メディコスの設計者である伊東豊雄さんにコメントをいただきました！



From Toyo Ito  
建築家 伊東豊雄

東日本大震災後、建築家の仲間と作ってきた集会所「みんなの家」は、被災地で家や仕事を失った人たちが新しい生活を始めるためのささやかな憩いの場です。東北や熊本では今は公民館のように住民に親しまれています。私はこれまでみんなの家のような建築と、自分が設計している公共施設との間にギャップを感じてきました。つまり、みんなの家に近づけばデザイン性が損なわれ、デザイン性を追求するとみんなの家から離れていく。建築家としてはそれがジレンマでした。そんななか、それらの両立に最も近づいた公共施設がメディアコスモスだと思います。

メディコスは公共施設でありながら、みんなの家の役割を果たしています。メディコスに子どもを連れてくるお父さんは、子どもを銭湯に連れていく感覚でしょう。図書館でもありながら、まちなかを歩いているような、公園に来ているような感覚がありますよね。理想的な公共空間だと思います。

- メディコスクロニクル - 開館から7年をふりかえろう

<p>2015</p> <p>開館</p> <p>2015</p> <p>ぼくのわたしのショートショート発表会</p> <p>朝井リョウ氏を招いた、将来作家を目指す子どもの自作短編作品の発表会。</p>	<p>図書館を愛する市民が自主的に図書館関連事業を運営するコミュニティ。</p> <p>2016</p> <p>ぎふライブラリークラブ</p> <p>岐阜で楽しく豊かに生きていくための暮らし方の提案やまちの情報などを発信。</p>	<p>2020</p> <p>シビックプライドライブラリー</p> <p>岐阜で楽しく豊かに生きていくための暮らし方の提案やまちの情報などを発信。</p>	<p>2021</p> <p>メディコス文化道</p> <p>メディコス館内やまちの情報を発信する年4回発行の広報紙。</p>	<p>2021</p> <p>メディコス編集講座</p> <p>コピーライトやデザインなど、地域で活躍する編集者を育てる通年の講座。</p>
---	---	---	---	--

シビックプライドコラム from メディコス編集講座

岐阜のまちを編集するエディター(編集者)を育成する「メディコス編集講座」の1期生による、個性あふれるコラムをご紹介します！コラムの全文はシビックプライドプレス公式サイトからご覧いただけます。

1 } 五感解放〜金華山の麓で喉をうるおす

梅雨が明け、晴れた日曜日の空を見上げて「今日行こう!」と思い立った。荷物をバッグに詰め、胸の高鳴りを抑えながら、未知の世界に飛び込む少年のように家を出た。JR岐阜駅から長良橋通りをバスに揺られ、約15分。そして、昼過ぎに金華山最寄りの「岐阜公園歴史博物館前」に降り立った。岐阜公園を通り抜けて「禅林寺」付近の「百曲り登山道」から登山開始。五感を研ぎ澄ませ、やっとの思いで山頂部にある岐阜城に到達。そして、いつもの呼吸を取り戻したところで「七曲り登山道」で下山。登山道出口から約5分の「公園の湯」で一番風呂を堪能後、失われた体力の回復を待ちながら、最後の目的地「Tap Room YOROCCA」での至高一杯に向けて身も心も清めていく…。



メディコス編集講座第1期生  
石田 トモキ  
最近、岐阜に住み着いたさすらいの旧転勤族。岐阜のコト、いろいろ勉強中です。

2 } 「巨匠」を感じる散歩道〜長良橋から柳ヶ瀬へ〜

「巨匠」。ある方面で際立ってすぐれた人を指す言葉だ。彼らに想いを馳せて、岐阜の街をそぞろ歩くのも悪くない。岐阜ゆかりの巨匠といえば、川端康成だろうか。短編「鶯」に登場する宿は、今も鶯飼見物にもってこいだ。続いて「花子の墓」を目指し浄土寺へ。花子は明治から大正にかけて欧米で活躍した女優。「花子 永眠の地」の石碑の先にあるごく普通の墓石は、激動の生涯を送りつつ、「知る人ぞ知る」存在となった花子に似つかわしい。柳ヶ瀬にも、ゆかりの映画監督がいる。「ドライブ・マイ・カー」でアカデミー賞を受賞した濱口竜介監督だ。監督は自らの映画の原点を、柳ヶ瀬の映画館に通った小中学校時代だと語っている。柳ヶ瀬には巨匠ゆかりの映画街として、これからも歴史を刻んでほしい。



メディコス編集講座第1期生  
山下 雅弘  
お隣の三重生まれ育ち、社会人になって岐阜へ。平日は名古屋に通いつつ岐阜を想う。

# 岐阜の文化地図 07

CULTURAL MAP

## 司町・伊奈波エリア



2022年春にメディコス内にオープンしたシビックプライドプレイス「ぎふ古今」は、岐阜市の歴史・ひと・文化の情報や魅力が集まる文化拠点です。「まち歩きステーション」にある端末では、16のテーマからさまざまなスポットを探してオリジナルのまち歩きマップが作れます。今回は、さかだちブックス編集部が選んだ「司町・伊奈波エリア」のマップを大公開！

### ① 大文字 御杉支店

テーマ／岐阜の定番食

2代目夫婦がお母様と3人で切り盛りする寿司屋。いいネタを出来る限りお値打ちにと、毎朝市場に向いて新鮮な魚介を仕入れている。ランチセット(平日のみ)は寿司7貫と巻物、サラダ、味噌汁、手作りのゼリーがついて低価格。寿司もサイドメニューも定番にこだわらず仕入れの状況やお客さんの要望に合わせて、柔軟に対応。アットホームな雰囲気も魅力で、遠方から長年通う常連客も多い。

岐阜市御杉町10  
11:30～14:00、17:00～22:00  
水曜定休 ※月2回水・木曜連休あり  
TEL.058-262-8118



### ② 旧岐阜県総合庁舎

テーマ／歴史的建造物

大正13(1924)年に建設された、90年以上の歴史がある建造物。昭和41(1966)年までは岐阜県庁舎として、その後は県総合庁舎として活用されてきたが、耐震性の問題から平成25(2013)年に閉庁。現存する鉄筋コンクリート造りの県庁舎としては最初期の建物で、岐阜の風景が描かれたステンドグラスや、大理石のマントルピースの装飾など、文化的価値のある見どころが複数残されている。



### ③ かし是

テーマ／本のあるお店

住宅地にひっそりと佇む、隠れ家のようなパン屋。朝食や学校帰りのおやつに毎日食べてほしいという店主の想いから、シンプルだけれど飽きのこないパンがずらりと並ぶ。パンには北海道産や岐阜県産の小麦を使用し、あんこやクリームもすべて手づくりで、自然なやさしい味わいの特徴。丁寧に作られたパンを求め、地元客はもちろん、遠方から訪れるパン好きも多い。ぎふまちライブラリーにも参加。

岐阜市上竹町34  
10:05～完売まで  
日曜定休  
TEL.080-2629-7568



### ④ (株)オゼキ ショールーム

テーマ／紙・あかり

明治時代に創業し、岐阜の伝統工芸品の販売から始まった株式会社オゼキは、やがて製造にも関わるようになり、和紙を透かした優しいあかりを届けるという思いのもと、現在は和紙を使った照明を製造・販売する。ショールームでは、昔ながらのお盆提灯から、世界的彫刻家イサム・ノグチ氏がデザインした「光の彫刻」と言われる「AKARI」まで、現在のライフスタイルに調和する商品が並ぶ。

岐阜市小黒町1-18  
9:00～17:00  
土・日・祝日定休  
TEL.058-263-0111



### ⑤ 岐阜麦酒醸造 (Tap Room YOROCA)

テーマ／新たな食文化

2022年春にオープンした岐阜市初のクラフトビール醸造所。併設するタップルーム「Tap Room YOROCA」では造りたてのビールが味わえ、量り売りも行っている。ホップとモルトのバランスが良い定番人気の「金華山エール」や、ゆずピールが爽やかな「やながせホワイト」、ゆっくり味わいたい度数8.0%の「夕日のIPA」など、岐阜のまちの風景をイメージした個性豊かなクラフトビールが揃う。

岐阜市伊奈波通1-46  
金曜17:00～20:30(LO 19:45)  
土・日・祝日13:00～20:30(LO 19:45)  
※営業日・時間変動あり  
月～木曜定休



### ⑥ ギャラリーカフェ 水の音

テーマ／カルチャー

金華山麓の「岐阜町」と呼ばれるエリアで、築100年の町家を活用して誕生したギャラリーを併設したカフェ。玄間の暖簾をくぐると、町家らしく奥に長く続く空間が広がり、水路を挟んでギャラリーが現れる。薬膳風の料理や中国茶がいただけるカフェのほか、「アートで彩る日々の暮らし」をコンセプトとした展覧会や、暮らしを豊かにするイベントやアートを学べる教室も開催している。

岐阜市桜町12、岐阜市朝屋町24  
11:30～18:00  
night cafe 18:00～22:00  
※夜は3日前までに4名以上で要予約  
水・木曜定休  
TEL.058-201-0122



### ⑦ 佐野屋

テーマ／岐阜の定番食

伊奈波神社の参道を少し北へ入った場所にあるお好み焼きや焼きそばが味わえる店。名物はボリュームたっぷりの「ねぎ焼き」や、薄い生地に具材を載せたいわゆるB級グルメの「一銭焼き」。麺のみの焼きそばも、肉やイカ、玉子といったトッピングをアレンジできて人気。どのメニューも良心的な価格で、地元の常連客も多い。

岐阜市末広町31-14  
11:00～14:00  
金曜定休  
TEL.058-264-5537



### ⑧ 岐阜善光寺

テーマ／信長と道三

戦国時代、織田信長公が信州善光寺の御本尊である一光三尊阿彌陀如来を岐阜に招いたことを機に創建されたとされる。信長公が本能寺の変で討たれた後、御本尊は信州善光寺へと移されるが、信長公の孫の秀信公の命で稲葉善光寺堂が建立され、御本尊の分身をお祀りするようになる。毎年2月には節分祭り、7月にはキュウリに邪気を封じて厄除けをする胡瓜封じが行われる。

岐阜市伊奈波通1-8  
9:00～17:00  
無休  
TEL.058-263-8320



### ⑨ 伊奈波神社

テーマ／信長と道三

景行天皇の14(84)年に創建されたと言われる、1900年以上の歴史がある古社。4月の第1土曜には岐阜まつりが行われ、山車や神輿が伊奈波神社から出発して、金神社、榎森神社までを練り歩く。壮大な様門、拝殿、本殿らが建つ厳かな雰囲気の境内や参道は、岐阜まつりの時期には数百本の桜がちょうど見ごろとなる。また、元旦には午前0時前から長蛇の列ができる参詣スポットでもある。

岐阜市伊奈波通1-1  
無休  
TEL.058-262-5151



## 司町・伊奈波エリアのまち歩きマップ

大正時代から昭和41(1966)年まで岐阜県庁舎が置かれ、新旧の岐阜市庁舎も建てられるなど、長きにわたり岐阜市の発展を支えてきた司町エリア。またその東にある伊奈波エリアは伊奈波神社に代表されるように寺社が多く残る歴史がある地域で、今も清々しい空気が漂います。平成27(2015)年にはメディコスが開館し、発展を続けるこのエリアを、マップを片手にその歴史をたどりながら、めぐっていきましょう。



## 司町・伊奈波エリアの歴史ギャラリー

シビックプライドプレイスにある「ぎふ歴史ギャラリー」の端末では、古い地図や写真を通して、江戸時代から令和までの岐阜のまちの歴史に触れることができます。司町・伊奈波エリアの歴史を写真からたどっていきましょう！

<p><b>大正(昭和(戦前))</b></p> <p><b>a</b> 明治42年の初代岐阜県庁舎 岐阜市歴史博物館蔵</p> <p><b>b</b> 近代建築の市公会堂 岐阜市歴史博物館蔵</p> <p><b>c</b> 岐阜県庁舎(真庁) 岐阜市歴史博物館蔵</p>	<p><b>d</b> 戦後の司町のまち並み 近藤隆彦氏提供</p> <p><b>e</b> 昭和30年の市役所とお蚕まつり 近藤隆彦氏提供</p> <p><b>f</b> 昭和46年の市役所本庁舎 近藤隆彦氏提供</p>	<p><b>g</b> 旧日下部邸と旧石原美術 北川隆氏撮影</p> <p><b>h</b> 旧岐阜市立図書館 北川隆氏撮影</p> <p><b>i</b> 平成後期(令和初期)の司町 北川隆氏撮影</p>
<p>明治6年に建設された県庁は、岐阜町及び岐阜市域の発展に大いに寄与し、官舎街が生まれた県庁舎南方は「司の町」と称されることとなった。</p>	<p>長良に移転後の岐阜刑務所跡地で、現市民会館の場所に昭和3年に建設された岐阜市公会堂。設計は名和昆虫博物館と同じ武田五一工學博士。</p>	<p>大正13年～昭和41年まで活躍した近代式建築の岐阜県庁。平成25年まで岐阜県総合庁舎として使用され、今も建物の正面部分が同所に残る。</p>
<p>写真中央に岐阜大学病院、その右には岐阜県庁の側面が見える。右手奥の特徴的な鉄製アーチは昭和23年に架けられた4代目忠節橋。</p>	<p>お蚕まつりは旧市役所のあった場所で、養蚕豊穰を祈願し平成24年まで毎年3月初旬に開催された。まつりには多くの出店が並んだ。</p>	<p>写真中央の建物は昭和41年に竣工された地上8階、地下2階の旧岐阜市役所本庁舎。市役所は令和3年に現在の司町へ移転した。</p>
<p>海運王・日下部久太郎が旧日下部合資会社の事務所として建築した洋館。後に石原美術として使用された。岐阜市都市景観重要建築物指定。</p>	<p>北川弥三松氏が矢橋亮吉氏の援助で大正12年に設立した財団法人岐阜簡易図書館が寄贈され、昭和33年に岐阜市立図書館が開館した。</p>	<p>平成27年に「みんなの森ぎふメディアアコスモ」が開館、令和3年には岐阜市役所新庁舎が開庁し、司町の様相は近年大きく変化している。</p>

## 司町・伊奈波エリアの未来予想図

### 参道にかつての賑わいと活気を取り戻したい

かつて、岐阜善光寺と伊奈波神社の参道はここで揃わないものはないくらいに商店が立ち並び、活気に溢れていた。今も清々しい空気と文化が残っているが、商店はたった7店舗。このままでは地域の良さが失われてしまうという危機感から、わたしたちは空き家と入居者のマッチングをして、新しいかたちで賑わいづくりをしています。

### 子どもたちが将来帰ってきたいまちに

今年5月と10月に開催した「ミライの参道まるけ」には、素敵な出店者さんに集まっていた。活気ある参道の景色を見ることができました。参道に出店したいという声も増えてきて、ようやく点と点が繋がり、面の賑わいになっていくような気がします。ここで生まれ育った子どもたちが、将来帰ってきたいと思えるようなまちにしていきたいですね。

### 未来予想をした人 /

松枝 朋子さん  
岐阜善光寺広報担当、株式会社岐阜まち家守取締役事務局長。一男一女の母で、ビールをこよなく愛する。

